



岡山市区づくり推進事業報告書  
(地域活動部門)

平成 31年 4月 3日

岡山市長 大森 雅夫 様

ツクリヤマコフンソセイカイ

フリガナ  
団体名

造山古墳蘇生会

所在地

連絡先

代表者役職・氏名 会長 定廣 好和

|                          |  |
|--------------------------|--|
| <p>実施分野</p>              | <p>(該当の分野を○で囲んでください)<br/>         ㊦ 地域課題解決<br/>         イ 地域課題掘り起し<br/>         ウ 地域計画づくり<br/>         エ 地域課題解決型の地域組織づくり<br/>         オ その他</p>  |
| <p>事業名</p>               | <p>造山古墳で地域の活力創成</p>  |
| <p>事業実施区域<br/>(小学校区)</p> | <p>加茂学区</p>  |
| <p>① 事業実施内容</p>          | <p>①ガイドマップ・校外学習児童向け冊子・チラシ等の製作と提供<br/>         ②地域のゆるキャラ「つくりやマン」売出し<br/>         ホームページ・印刷物・ユニフォームに表示<br/>         ③日本遺産認定記念シンポジウム開催と作山古墳所在地の吉備路ボランティア観光ガイド(総社市)との交流<br/>         ④兵庫県朝来市大蔵自治協議会との相互視察交流<br/>         ⑤校外学習の児童・生徒や一般見学者へのガイド活動<br/>         ⑥高松中学校における「高松歴史教室」・「地域学習」に協力<br/>         ⑦加茂小児童、高松地区環境衛生、保護者と共に古墳及び周辺の清掃奉仕活動と異世代交流</p> |
| <p>② 解決を目指した課題</p>       | <p>①地域の「造山古墳」に対する話題を提供し、関心・興味・価値認識を高めさせること<br/>         ②学校の取り組む校外学習・地域学習に協力することで「造山古墳」の偉大さや古代吉備の強大さを理解させ、この地に対し畏敬や愛着や繋がりを育むこと<br/>         ③「造山古墳」の知名度を更に高め加茂学区のシンボル化を促進すること<br/>         特に、日本遺産認定地になった後に西日本豪雨災害が発生し、日本遺産認定そのものの風化を懸念した。その様な事にさせない為に素早く印象付けする必要があった。</p>   |

|                      |  |
|----------------------|--|
| <p>③ 目的・目標の達成状況</p>  | <p>① 「造山古墳」を世に広め、見学者を増やし、賑わいを生み出す。</p> <p>② 「造山古墳」を学区のシンボルになる様、価値観の共有を図る。</p> <p>③ 「造山古墳」を通じ、地域の人々にふるさとに対する愛着心を醸成させる。</p> <p>④ 子どもたちの地域学習に協力し、誇りや自慢を植え付け、健全育成に繋げる。</p> <p>⑤ 「造山古墳」が存在する加茂学区の知名度を高め、話題豊富で活力ある地域をつくる。</p> <p>30年度も大勢の見学者がやって来た。児童に限れば、53校 4,844人 内、ガイドしたのは、23校 2,066人と過去最高となった。特に、5月2日は各校集中し9時半から1時間の間で7校 740人を数えた。7月豪雨災害で立入れなかった時期があったものの一般客も増え、日本遺産認定の効果が出ている。平成31年初頭から60人を超える団体の案内も今までに無かった事である。</p> <p>4月の学区連合町内会総会で蘇生会立上げから9年間の活動内容やマスメディアで取上げられた実態を説明し理解を得た。その結果、一戸当たり100円の負担金を可決出来た。学区における蘇生会の活動と古墳の価値観の共有が図れたものと判断する。</p> <p>次代の担い手である地元の小・中学生に対する地域学習への協力は継続しており、学校側の評価も高い。高松地区内全ての学校を見ても落ち着いている状況である。12月15日 日本遺産認定記念シンポジウムを高松公民館で開催した。遠くは東広島市や真庭市からも参加者があり、211人もの大盛況であった。収容できずにお断りした人も多数出た。「加茂」、「造山古墳」の知名度・話題性はより高まり、活力が感じられた。</p> |
| <p>④ 企画等の工夫と情報公開</p> | <p>① ゆるキャラ「つくりやマン」を表示し、話題性やイメージアップに努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童向け冊子、ガイドユニフォーム、ホームページ等に表示した。</li> <li>・ 着ぐるみ制作を検討したが蘇生会独自で作れる部分はなく、完全委託になると判り、資金面も考慮し一時保留とした。</li> </ul> <p>② 日本遺産認定を記念したシンポジウムを開催し、古代吉備を再認識する機会とした。</p> <p>また、日本遺産認定の価値を風化させないようにホームページにも表示、ヘリテ-ジマークをチラシや冊子にいち早く表示した。</p> <p>③ 県下3大古墳所在地との交流では、吉備路ボランティア観光ガイド（総社市）と交流ができた。</p> <p>今後、定期的なものにする予定である。</p> <p>尚、赤磐市にはボランティアガイド組織は存在していなかった。</p> <p>情報公開では、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 加茂学区連合町内会ホームページ「造山古墳蘇生会」にアップ</li> <li>② 造山古墳蘇生会ボランティアガイドホームページにアップ</li> <li>③ 岡山市立高松公民館「まつかぜ」に掲載</li> <li>④ 冊子・回覧チラシ等</li> <li>⑤ その他、新聞・TV等のメディア</li> </ol>  |

|   |  |
|---|--|
| <p>⑤ 次年度計画</p>                          | <p>①シンポジウムの書籍化・自費出版<br/>         ②ガイドマップ・案内パンフレット・児童向け冊子等の製作と提供<br/>         ③ガイド養成講座・研修会・講演会の開催<br/>         ④校外学習の児童・生徒や一般見学者へのガイド活動<br/>         ⑤地元の小・中学校の「総合学習」・「地域調べ学習」や「高松歴史教室」に協力<br/>         ⑥吉備路ボランティア観光ガイド（総社市）と定期交流<br/>         ⑦古墳及び周辺の清掃奉仕活動<br/>         ⑧ビジターセンターの利活用検討<br/>         ⑨第4回「造山古墳まつり」の企画検討</p>  |
| <p>⑥ 事業実施者の評価・感想、審査会での助言及び意見を踏まえた改善</p> | <p>①蘇生会を安定且つ継続的な運営に導くためには、学区をあげての支援体制が不可欠であり、平成31年5月に満10年を迎えるにあたり、1年前にあたる30年4月の学区連合町内会総会で蘇生会立上げから9年の活動内容を説明し、また、会の活動が信頼性におけるメディアの活字にどの程度取上げられたか等も提示し、理解を得、一戸当たり100円の負担金動議を圧倒的多数で可決した。この結果から学区の評価が得られ、造山古墳への価値観も会の活動にも共通の認識が図れたと判断する。</p> <p>②今期の核としたシンポジウムの成功と吉備路ボランティア観光ガイド（総社市）との交流が図れたのは良かった。</p> <p>③実施計画にはなかった展開であるが、兵庫県朝来市大蔵自治協議会と相互訪問が出来た。中山間周辺地域で似た環境であるが、様々な活動に大変勉強させてもらった。このような交流を今後も模索したい。</p> <p>④ゆるキャラ「つくりやマン」の着ぐるみは、費用の問題もあるが完全委託しかない。これが出来れば話題性が見込め多方面で利用できる。将来の実現を目指し温存しておきたい。</p> <p>⑤従来よりも知名度が上がり、校外学習の案内児童数は2,000人を超えた。「認められている」証しであり喜ばしい反面、ボランティアガイドの高齢化や仕事都合等もあり、平日での対応だけにガイドの手配面で悩まされている。</p> <p>⑥一般も聞くことが出来る講演会やガイド養成講座では参加者が多いが、ガイドになろうという申し出がなかなか出てこないのが実情である。</p> <p>⑦その様な状況下、日本遺産認定に関連しビジターセンターの具体化が報道され、大きな力をもらった感がある。</p> <p>⑧知名度が上がるにつれ、評判が全国区になるにつれ、見学者の期待にふさわしい対応が求められ、蘇生会の第2ステージへ向け、気を引き締めて掛からねばと思う。</p> <p>○区づくり推進事業審査会からの助言・意見の内容<br/>         ・地域住民が一体になった、郷土愛に満ちた取り組みです。事業内容も工夫されており且つ確実に達成されていて他の事業の模範となる事業です。<br/>         ・毎年ガイド養成をしていくのは非常に大変だと思いますが、是非がんばって継続実施していただけたらと思います。<br/>         ・企画面においていろいろと試行錯誤されていて、努力がうかがえます。<br/>         ・その他、審査会で受けた意見やコメント集（既送付）も参考にして事業を推進してください。</p> <p>右記のⅠ～Ⅴの該当部分に○を付けてください。なお、Ⅳを選ばれたときは、その理由を下記（ ）内へ記入して下さい。</p> <p>（理由： ）</p> <p>助言等の内容について、改善ができましたか。</p> <p>Ⅰ できた<br/>         ② おおむねできた<br/>         Ⅲ 一部できなかった<br/>         Ⅳ まったくできなかった<br/>         Ⅴ 改善意見がなかった</p> |

## ⑧事業実施経過

| 年 月 日      | 内 容                               |
|------------|-----------------------------------|
| 30年 4月 1日  | 監査会                               |
| 4月 7日      | 学区連合町内会総会に「蘇生会への一戸当たり負担金」議案上程     |
| 4月 14日     | 交対協加茂支部総会終了後、保留議案可決(一戸当たり負担金)     |
| 4月 22日     | 造山古墳草刈り                           |
| 4月 27日     | 高松農高清掃活動を兼ねた古墳見学の案内               |
| 5月 1日      | 東畦小 79名案内 今季の校外学習協カスタート           |
| 5月 5日      | 造山古墳後円部上見学通路の障害枝伐採                |
| 5月 12日     | 造山古墳蘇生会総会、引続きボランティアガイド懇談会         |
| 5月 21日     | 加茂小 3年生の総合学習で案内                   |
| 6月 2日      | 兵庫県朝来市大蔵自治協議会案内後、高松公民館で意見交換会      |
| 6月 24日     | 岡山市社協「祭りによる地域活性」で古墳まつりの事例発表       |
| 6月 30日     | 吉備路ボランティア観光ガイド(総社市)と交流事前協議        |
| 7月 3日      | 高松中学校「高松歴史教室」—高松地域に学ぶ—参加          |
| 8月 29日     | 岡大新納教授から依頼のイタリア人 5名含む 12名案内       |
| 9月 10日     | 西日本豪雨災害見舞金を市社協へ贈呈                 |
| 9月 15日     | シーズン後のガイド懇談会開催(高松公民館)             |
| 9月 18日     | ツクリヤマン着ぐるみについて(株)千々木と協議           |
| 9月 19日     | 岡山市観光コンベンション担当引率の漫画家一行制作取材で案内     |
| 10月 30日    | 吉備路ボランティア観光ガイド(総社市)と合同研修打合せ       |
| 11月 3日     | 兵庫県朝来市視察研修(古墳、古代あさご館、竹田城等)        |
| 11月 13日    | 高松中学校 1年生校外学習「地域調べ」案内             |
| 11月 27日    | 御津五城小 5・6年生 17名案内(校外学習今年最後)       |
| 12月 2日     | 吉備路ボランティア観光ガイド(総社市)と日本遺産認定地を視察    |
| 12月 15日    | 第8回「鴨屋塾」日本遺産認定記念シンポジウム(高松公民館)     |
| 12月 18日    | 倉敷ケーブルテレビ「吉備の国の日本一を探せ」番組取材協力      |
| 12月 23日    | 岡山市観光コンベンションより支給のぼり旗の設置作業         |
| 31年 2月 15日 | 高松中学校「高松歴史教室」参加                   |
| 2月 20日     | 「造山古墳クリーン作戦」加茂小6年・保護者・環境衛生委員等65名  |
| 3月 23日     | 「対日理解促進交流プログラム」参加外国人(東南アジア)一行 37名 |

## ⑩ 収支決算書

### ◆収入

単位:円

| 項 目    | 予 算 額   | 決 算 額   | 備 考                    |
|--------|---------|---------|------------------------|
| 岡山市補助金 | 240,000 | 205,000 | 区づくり助成金                |
| 負担金    | 80,000  | 13,247  | 造山蘇生会より                |
| 参加費    | 0       | 135,500 | 町内より@100円/戸×<br>1,355戸 |
| 協賛金    | 150,000 | 50,000  | 事業主、個人など               |
| 寄付、他収入 | 10,000  | 6,270   |                        |
|        |         |         |                        |
| 計      | 480,000 | 410,017 |                        |

### ◆支出

単位:円

| 項 目      | 予 算 額   | 決 算 額   | 内容(必ず記載してください)       |
|----------|---------|---------|----------------------|
| ①消耗品費    | 45,000  | 38,342  | インク・用紙・文房具           |
| ②食糧費     | 40,000  | 33,529  | 会議お茶代                |
| ③印刷製本費   | 130,000 | 192,141 | パンフ・ポスター・チラシ         |
| ④燃料費     | 0       | 1,165   | ガソリン代                |
| ⑤通信運搬費   | 50,000  | 44,996  | 郵送料・電話代等             |
| ⑥手数料     | 0       | 1,209   | 振込手数料                |
| ⑦使用料・賃借料 | 15,000  | 18,235  | レンタル料・部屋代            |
| ⑧原材料費    | 50,000  | 16,200  | 煎餅<br>(協賛者・講師・交流PR用) |
| ⑨委託料     | 0       | 0       |                      |
| ⑩工事請負費   | 0       | 0       |                      |
| ⑪報償費     | 100,000 | 45,000  | 講師謝礼                 |
| ⑫保険料     | 20,000  | 19,200  | ガイド傷害保険              |
| ⑬旅費交通費   | 30,000  | 0       |                      |
| ⑭その他経費   | 0       | 0       | 慶弔・総会費用・駐車料          |
|          |         |         |                      |
| 計        | 480,000 | 410,017 |                      |